

DX

その先へ

AX・HX・GXによる限界突破

谷岡悟一 米家信行 和久利智丈

はじめに なぜ今、DXの「その先」を見据える必要があるのか

本書を手にとられた方の中には、「今さらDXか」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。DXという言葉は、すでに何年も使われており、書店には数多くの書籍が並んでいます。私たち自身、新たなアプローチを示すことができるのか、筆を執ることに迷いがあったのも事実です。

しかし、多くの企業が今なお「DXを進めても、期待した成果が出ない」という壁に直面しています。ツールは導入した。号令もかけた。けれども、現場は動かず、ビジネスは変わらない——。この停滞感の正体は何なのでしょう。

私たちは、その答えが「従来のDXが時代遅れになっていること」にあると考えています。これまで語られてきたDXは、主に社内の効率化を目指すものでした。しかし、2030年を見据えた今、ビジネス環境は根本から変わろうとしています。

人材不足やグローバル競争の激化に加え、「アナログトランスフォーメーション (AX)」が促す「物理的なつながりがもたらす価値」への回帰、「ヒューマントランスフォーメーション (HX)」が求める「人と組織の進化」、そして「グリーントランスフォーメーション (GX)」が課す「持続可能性への貢献」。これら新しい潮流は、もはや効率化だけでは乗り越えられない、より複合的で大きな変革を企業に求めているのです。

だからこそ今、私たちはDXの「その先」にある新たな可能性を
探求し、AX・HX・GXによる限界突破を提案します。

本書の役割は、この複雑な時代を読み解き、進むべき道をシンプル
に示すことです。

それは、私たちコンサルタントの原点でもあります。「DXとは何か」という本質的な問いから、「なぜうまくいかないのか」「どうすれば進むのか」という実践的な問いまで、現場視点で整理された具体的な答えを届けたい。その想いで、この本を書き上げました。

本書が対象とするのは、次のような方々です。

- ・ DX投資判断に迷っている経営層の方
- ・ 未来を見据えた戦略を描く部門の方
- ・ 変革の第一歩が踏み出せない現場リーダーの方
- ・ 導入したツールが根づかないと悩む担当者の方

DXとは、単なるITの話ではありません。それは、人と組織が進化を遂げるプロセスであり、企業全体の「変革の旅」に他なりません。

本書が、その旅路における信頼できる「地図」となり、皆様の会社が未来へ向けて力強く前進するための一助となれば幸いです。

それでは、新たなビジネスのステージへの扉を、共に開いていきましょう。

はじめに

なぜ今、DXの「その先」を見据える必要があるのか 002

Chapter 1

DXの現状

1	共通理解の欠如.....	010
	DXの定義	
	DXに対する誤解	
2	高まるDXの重要性.....	015
3	「2025年の崖」は越えられたのか.....	017
	2025年の崖問題とその現状	
	DX推進の中で見えてきた真の課題	
	DXの「限界突破」が求められる理由	
4	日本企業のDXの現状.....	025
5	日本は「デジタル後進国」.....	028

Chapter 2

2030年における DXの環境変化

- 1 DX市場の拡大と投資領域の変化……………034
 - 世界のDX市場規模と成長予測
 - 日本国内のDX市場規模と成長予測
- 2 デジタルテクノロジーの主要なトレンド (What) ……037
 - ①DXの基盤テクノロジーである「AI / ロボットの進化」
 - ②AIやIoTを加速する「6Gの登場・普及」
 - ③AIに革命的な変化をもたらす「量子コンピューターの台頭」
 - ④AIと6Gなどの通信インフラを基盤とする「Web3.0の浸透」
 - ⑤2030年の輸送力不足解消やインフラ点検の有力手段である「ドローンの普及」
 - ⑥各テクノロジーを統合実装する「スマートシティの発展」
- 3 ビジネスプロセスの変革 (How) ……047
 - ①生産人口減少時代における「ビジネスプロセス効率化の必要性」
 - ②求められる「ビジネス人材のスキルシフト」
 - ③ビジネス変革を加速する「ヒューマントランスフォーメーション (HX)」
 - ④グローバル人材活用とビジネスの多言語化対応
 - ⑤未来型ビジネスを支える「スマート・ワークスペース」
- 4 新しい価値の創出 (Why) ……057
 - ①持続可能な社会実現に向けた「グリーントランスフォーメーション (GX)」
 - ②人間中心の価値創出を目指す「アナログトランスフォーメーション (AX)」
 - ③顧客体験を革新する「次世代パーソナライゼーション」
 - ④現実世界の可能性を広げる「デジタルツイン活用」
 - ⑤業界の枠を超えた共創を実現する「デジタルエコシステム」

Chapter 3

日本企業が取り組むべき 課題と対応策

1	DXの3つの中核要素と3つの推進基盤	066
2	中核要素① テクノロジーの課題と対応策	067
	〔主要課題〕 レガシーシステム依存とテクノロジー進化への対応の遅れ	
	〔対応策〕 モダン化と段階的な新技術導入	
	〔期待できる効果〕 俊敏性とブランド価値の向上	
3	中核要素② ビジネスプロセスの課題と対応策	076
	〔主要課題〕 硬直化した業務フローと変化対応力の不足	
	〔対応策〕 業務の可視化・標準化とデジタルテクノロジーによる自動化	
	〔期待できる効果〕 価値創出活動へのシフトと変革の基盤構築	
4	中核要素③ 価値創出の課題と対応策	090
	〔主要課題〕 効率化止まりのDXと不明確な目的・ビジョン	
	〔対応策〕 DXビジョンの明確化と顧客起点のアイデア創出	
	〔期待できる効果〕 収益源拡大と競争優位性の確立	
5	推進基盤① DX推進体制の課題と対応策	100
	〔主要課題〕 戦略の不整合と経営層のコミットメント不足	
	〔対応策〕 トップ主導の推進体制とデジタルリテラシー向上	
	〔期待できる効果〕 全社横断の変革促進と意思決定力の向上	
6	推進基盤② 組織・人材の課題と対応策	109
	〔主要課題〕 デジタル人材の不足と変革に対応できない組織風土	
	〔対応策〕 人材育成・獲得戦略と組織文化の変革	
	〔期待できる効果〕 組織の自走化と人材競争での優位性確立	
7	推進基盤③ 企業を取り巻く環境の課題と対応策	121
	〔主要課題〕 企業を取り巻く環境（エコシステム）の課題	
	〔対応策〕 多様なステークホルダーとの協業体制の構築	
	〔期待できる効果〕 革新の加速とリスク分散	

Chapter4

2030年に向けた DX推進実践アプローチ

1	2030年の企業のあるべき姿	132
	テックグリーン社の概要と2025年時点の課題	
	テックグリーン社の2030年の姿	
	テックグリーン社の一員・伊藤美咲の一日	
	ケースから学ぶ変革の要点	
2	DXの目標設定	143
3	現状分析とビジネスプロセスの整理	147
	ビジネスプロセスの3分類	
	ビジネスプロセスマッピングと変革優先順位の決定	
4	DX戦略の策定	150
5	DXの実行計画の作成	151
	2030年に向けた段階的アプローチ	
	ビジネスプロセス変革の4ステップ	
	DX推進体制の構築	
	社内変革推進のための具体的アプローチ	
	社外連携・エコシステム形成の実践ステップ	
6	DX推進時の想定リスクと対策	162
	【リスク①】 社内の抵抗勢力	
	【リスク②】 経営層の関与不足	
	【リスク③】 レガシーシステム刷新における移行遅延や障害発生	
	【リスク④】 業界特有のリスク	
7	DXの成功指標の設定と定期的な測定	164
	DXにおけるKGIの例	
	DX推進のためのKPIの例	
8	DX推進にとって重要なこと	168

Chapter 5

DX 事例と実践知見

1 業種別DX推進事例 170

[不動産業の変革事例] 従来の電話・メール・FAX・郵送を共通プラットフォームへ

[建設業の変革事例①] 建設資材の提供・設計・構築までのビジネスプロセス全体をデジタル化

[建設業の変革事例②] 紙やExcel帳票のデジタル化

[流通・小売業の変革事例] RPA/SaaSによるバックオフィス業務の効率化とDX推進基盤構築

[運輸業の変革事例] DXに関する組織文化の変革

[金融業の変革事例] 融資業務のデジタル化

[医療・介護業の変革事例] IoT/AIアシスタントの活用による介護サービスの品質向上

2 事例の成功要因の分析と2030年への示唆 183

成功事例に共通する要素

2030年に向けた実践的示唆

おわりに

DXの先にある企業変革への道筋 191

参考資料 196

DX診断チェックリスト 198